平成２９年度第１回高梁市総合教育会議　会議録

１．　招　集　平成２９年６月２日　午前１０時００分

２．　開　会　平成２９年６月２日　午前１０時００分

３．　閉　会　平成２９年６月２日　午後　０時０７分

４．　会議の場所　　高梁市役所　３階大会議室１

５．　出席、欠席した構成員の氏名

氏　名	出欠の別
近　藤　隆　則	出　席
小　田　幸　伸	出　席
吉　川　　昭	出　席
山　内　廣　子	出　席
川　上　は　る　江	出　席
和　久　野　慶　子	出　席

６．　会議に出席した者の職氏名

職　名	氏　名	備　考
政策監	前野洋行	
健康福祉部長	堀　節夫	
教育次長	宮本健二	
参与	田村啓介	
総合戦略課長	西本隆之	
こども未来課長	赤木憲章	
教育総務課長	大福克志	
学校教育課長	張谷孝文	
社会教育課長	渡辺丈夫	
社会教育課課長代理	福田茂樹	
スポーツ振興課長	川上啓二	
文化センター所長	山崎一広	
学校教育課課長補佐	西川優子	

7．　協議題

（1）　就学前教育・一貫教育について

（2）　高梁市立学校再編推進審議会の報告

（3）　成羽複合施設について

（4）　新図書館の現状と課題

（5）　スポーツ推進計画の現状

8．　議事の概要

開会市長あいさつ

・　教育大綱の就学前教育の充実を実現するため、就学前教育係を新設した。指導に関しては教育委員会が主導するべきという考えによる。
・　ユメセン事業が今年度も小学５年生、中学２年生を対象として実施された。中学生には進路を定めるきっかけになればと思っている。
・　総合教育会議は、年１回では足りないので、今回開催させていただいた。意見を出し合い、よりよいものになればと思っている。

（1）　就学前教育について

市長：闊達な議論となるよう協力をお願いする。

別紙資料により学校教育課長説明

「たかはしっこスタンダード」（仮称）のイメージ図に対する意見

吉川教育委員：重点、動きが見えにくい。目玉が何なのかが分かりにくい。高梁の重点は何なのかが分からない。

川上教育委員：誰が見てもわかるように。昔、県が作っていた「おかやまっこスタンダード」が分かりやすかった。道徳の時間「ふるさと学習」の中身が分かる方がよい。

山内教育委員：幼稚園から高校までの連携がどのように行われていくのか、この中に具体的にあってほしい。先を見据えたものもあってもよいのではないか。

和久野教育委員：小学校、中学校に食育の推進というのがあるが、（当市立の）幼稚園も給食を食べているので、就学前の食育というのも大事ではないか。できるだけ色々な物を食べて地産地消の意識を持たせる教育があってもよいのではないかと感じている。

高梁の魅力として他都市との違いを言えば農業だと思う。中高の職場体験活動で農業を体験する機会を増やして、企業がないため岡山倉敷に出ますということがないように、将来農業をしたいともっと感じられるような教育があってもよいのではないか。

「あいさつ」というのが漠然としている。子供が敬語を使えなくなってきていると感じる中で、礼儀とか具体的に言えば敬語を使うとか、あいさつは大前提であるが、「礼儀」という言い方の方がよいのではないか。

市長：誰が見ても分かるというのは必要であると思う。

「たかはしっこスタンダード」というのは、大人になった時に基本の部分は出来ているよというイメージである。

「ふるさとだいすき」というのは、地元企業がどのようなものがあり、どのような仕事があるのかということを分かってもらえていない。今年から大人を対象とした企業訪問用の市政バスを出すことにした。高校生とか就職前を対象として高梁の企業をもっと幅広く、イメージを変えてもらわないといけない。子供達の場合は、学校教育の中になると思うが、職場体験で学年でまとめて行くとか、会社がこんなことをしていたのかということを経験させるのもよいことかもしれない。自分がやろうとしていることがここ（高梁の会社）でもできるのだということを気付かせあげることもできるのかなと思う。

教育長：（たかはしっこスタンダードは、）市の関係者で情報を共有し、保護者へ見せる。できるだけ分かりやすく、みんなで共有できるというのがねらいである。（完成したとしても）内容を具体的にどのようにしていくか。高梁として重点を置く部分が明白でなければ、単に作っただけに終わってしまう。具体的にどのような動きをするかということが決め手と思っている。

道徳教育（道徳の時間）は、国の事業に乗って、山田方谷等郷土の偉人の道徳の教材を作り学校へ配信する。配信された学校は改良するか、そのまま使用してもらい、必ず何れかの学年で学習できるようにする。

（伝統）芸能というのは、議会でも少し伝えたが、地域に伝わるような芸能について、どの学年かでどの子も触れて卒業していくようにする。必修制選択制を取り、奨励するだけにならないよう実際にどこでもきちんと取り組めるよう教育委員会がリーダーシップを取っていく。

納税教育等も憲法に規定された大事な、働いて税金を納め、みんなで地域を作っていくということは、中学校高校になれば身に付けさせなければならない。

高校の高学年になると、選挙にきちんと行くというようなことも入ってくる。

これら枠組みをこれから詰めていって、具体的に入れていきみんなで共有、年度年度で修正を加え、より良いものにしていくというイメージを持っている。

川上教育委員：おかやまっこスタンダードでは繋がるイメージがあり、分かりやすかった。たかはしっこスタンダードの「あいさつ、ルールを守る」は、どのように考えるのか、繋がりにくい。

教育大綱とたかはしっこスタンダードが繋がるような書き方にする方が見る人はすっきりするのではないかと思う。

吉川教育委員：大志を抱き未来を拓くというのは、高梁を作っていく子供達の心を育てていくということだと思うが、どんな心を育てていくのかというイメージが掴みにくい。例えば、私は、自分の持つ時間の１％を誰かのために使うことができる人間作りをしていこうという訴えがあり、（たかはしっこスタンダードの）中で行おうと思えば、大学生は限界はあるが地域の中学校・高校に対して出来ることをしてはどうか。今既にボランティアをしている大学生も大勢いる。高校生は高校生で地元の中学校へ出来ることをしている学生もいると思うがもっと増やす。

中学生は地元の小学校へ出向き、出来るサポートを夏休みに学習サポートを

行っている地域もある。小学生は地元の幼稚園保育園へ出向いて行っている。これは総社市が行っているピアサポートと同じだと思う。３頁資料の黒い縦の矢印がピアサポートであり、自分達ができる地域へのサポートを行う子供を育てていく。

最近聞いた話だが、宇治地域の新設トイレの清掃に宇治高、宇治小の児童生徒が手を上げたらしい。学校の中に閉じこもるのではなく、地域へ出る。子供達をもっと育てていくような取り組みを意識して行うことが大事ではないか。そのようなことを共有できれば、自分の学校に出来ることは何かということを改めて考え、今まで行ってきたことに加えていけば、小さな取り組みも大きなものとなっていくのではないかと思う。成羽の小中学生は、成羽花火の次の日の片付けに自主的に参加することが伝統になっている。素晴らしいことである。もっと地域のイベントに小中学生ができることを、スタッフとして出向いていこうではないかということが、この中から見えてきたら力になるのではないか。

市長：（たかはしっこスタンダードの）現場の先生からも意見をもらう。分かりやすく見えるようにしていきたい。

今まで温めてはいたのだが、できれば高校フランス語の交流をさせてみたい。渡欧の際フランスの高校が交流を希望していた。色々経験させてみるのが大切なのかなと思う。

（２）　高梁市立学校再編推進審議会の報告

別紙資料により教育総務課長説明

市長：議会でも質問いただいたが、学校再編、高梁市内の学校について教育環境を確保するためにどうあるべきかの基本的考え方を議論しましょう。市の教育目標達成のために諮問させていただいた。第１回目は情報共有という段階である。

和久野教育委員：単に学校を減らすように見えてしまう。人数が少ないところを統合すれば、それで済むのかというところが気になるところである。大前提があるのかないのか。

市長：ない。地域に知ってもらわなければならない。（審議会は）公開とするのか。

教育長：議会答弁のとおり、原則として出来るだけ公開する。どことどこが統合というような具体的な意思決定、委員の自由闊達な発言が厳しくなる場面については一部非公開となると思っているが、この審議会を開催するということは、みなさんの意見をいただきながら再編について考えるということを原則としている。中間まとめの時は、６中学校区全てで説明会等を行い、意見をいただく。その場において全てがオープンとなるし、修正が必要となれば行うということとなる。今後のスケジュールの「③　再編について（第３回～第５回）」と「④　学校教育の充実（第６回）」は、子供達にどのような環境を作るべきかを話し合うべきで、その一つの手法として再編統合があり、小学校と小学校がＩＣＴを用いて連携授業を行う、コミュニティスクール等を導入し、地域の力を借りて子供達に大いに体験させ、小規模でも頑張っていくかそのようなことも話し合っていかなければならないと思う。しかしながら、一つの方法論として統廃合は避けては通れない部分もあり、それについて一定の方

向性とか比重とかを出していただく。統廃合ということとなった場合は３年前くらいから、各学校と話しをするというような形を考えている。委員に論議していただくので、大きな枠組みの話である。

市長：地域の人にとっては、学校が無くなるのは大きなことである。保護者の方とっては、競争教育も必要であると言う意見もある。色々な意見があるので、まず現況をみなさんに周知しなければならない。議論の中で、最終的には子供達を考えるとどうするか、（統廃合ということになれば）地域をどうするかということは別に考えなければならない。

どこでどうするかというのはない。意見を聞かなければならないと思っている。将来推計は、２８年度は出生数が３０人増えた。もし、２９年度も増えれば考えないといけない。９回で、３月に答申となっているが早急にとは思っていない。しっかり議論をしないといけない。

教育長：これは、何もなくいった場合の日程である。場合によっては集中論議ということになるかもしれないが、長くすればよいというものではないので、基本１年、修正、課題等出てきた場合その分延長していく。委員の任期も、答申が出るまでである。

吉川教育委員：まちの活性化と適切な教育環境は車の両輪ですすむべきであると思う。まず地域がどう考えているかが大事である。中間答申を携えて歩くよりも前に、まちづくりと学校を考えていく地域の集まりが核となってなければ、各地区の代表が集まると大きな組織となりすぎ、核となるべき各地域のまちづくりの思いが伝わりにくいのではないかという心配がある。（統廃合について）地域から声が上がるのが理想であると思う。

（真庭市の旧）北房町が四つの小学校が統合するが、四校全ての保護者が賛成である。理想的な統合である。そこまでいかなくても、保護者、地域がそう（統廃合）しよう、せざるを得ないという気持ちになるようにしないと、また行政が決めて提案するのか、誰が決めたのか、まちの活性化にはならない、統合してはならないという意見の方が高まると思う。

山内教育委員：審議会の委員にはまちづくりの代表がなっているので、議題を地域に持ち帰って、話し合ってもらい、その意見を持ち寄ってもらってはどうか。それが普通ではないのか。（まちづくりの）会長、委員長がどのような気持ちで審議会に臨んでいるのか、地域の話をある程度聞いて臨むのかそのようなシステムが大切ではないかと思う。そうしなければ地域へは浸透しない。

川上教育委員：高梁市全体産業もからめ、人口増加のためにどのような施策を具体的にとっているかを知らない。統合だけではない他の分野でも努力しているということを説明したほうがよいと思う。

市長：情報提供しながら、丁寧に進めていく必要がある。教頭がいないような学校でよいのか、なぜそのようになるのかを住民に理解してもらえるよう市が努力しなければならない。

雇用の場の確保を総合戦略に掲げているが、雇用の場の確保として職種を選ばねば、多くの職種はないという前提ではあるが、３，５００くらいの市内枠があるにもかかわらず、使われていない。足りないから市外からというのが現実である。その現実をみなさんがどのように理解するかである。希望する職種全てが高梁市にあるわけではないので、高梁市に住み、働くということにはならないかもしれない。市の行政施策

を一緒に説明した上で、どうですかというのが大事なのかもしれない。

山内教育委員：企業も人材派遣を多く使う傾向があるのではないか。

市長：現在市外や人材派遣からが６割である。本当は市内で採用したいのだがというのが実態である。マッチングが上手くできていないのも確かである。

和久野教育委員：中学校からの方から再編したらという話があったと思うが、小規模校を大きい学校へ統合するというのは一番安直な考え方かなと思うが、今後の人数減少をデータとして目にした時小規模校の生徒がどう感じるかをふまえて、この先もその中学校に本当に行きたいと思うかどうか。生徒自身中学生ともなると決めることができるように感じている。各地域小中学校全て残してほしいので、このような状況をふまえて、各中学校の特色づくりを行い、通学区を撤廃し、行きたい中学校に行けるように、このような学校があるということを周知し、小学校５、６年生ぐらいに体験入学、見学会、学校開放を行い、子供が選択できるようにするという方法もあるのかなと思っている。

ただ減らすだけより、地域の活性化等含めて、猶予を持たせてもよいのではないか。

中学校から選択の幅が拡がるということがあってもよいのでは。選択肢も持たせた上で、再編の審議がすすめばよいなと思う。

資料の小中学校間の距離が学区外もあってもよいのではないか。

教育長：学区については、特区を申請してどこに行ってもよいとするしか方法がない。

総社の場合は少ない学校へ来ることだけができる。

統廃合のみの選択肢でいくのではなく、様々な教育内容や体制で考えていただく。

（資料５頁の今後のスケジュールの）③と④の順番がどうかということについてもかなり論議しており、特色教育を充実していく中で教育環境として難しいということとなれば再編という順番の方がよいのではないかとも思っている。

真庭市の答申は、１つの旧町に１つの小学校はいるだろうという出し方、新見市の答申は、何年にどことどこを統合するという具体的な出し方である。

今回の答申は、ゆるやかで、一つ一つについては保護者や学校と話し合うというのが方向となると思う。

和久野教育委員：各中学校がこんな学校であるということを知った上で、どこの中学校へ行きたいか意識（希望）調査を行なってはどうか。中学生や小学校の高学年にはしてもよいのではと思う。ＰＴＡの中で話し合ってもらい、審議の場に持ってきてもらうというのもよいのかなと思う。

市長：ここで結論を出すわけではないので、意見をいただいた。これからの審議会の経過でも工夫が必要となるので、今日の意見を参考にさせていただく。審議の途中経過は、教育委員会等でもお知らせする。

教育長：１回毎に次回の時委員に承認を得て、ホームページへ概略版を出す。

（３）　成羽複合施設について

別紙資料により社会教育課長説明

市長：従来施設の再編を考えていたところへ、伊藤謙介氏の話をもらったのでせっかくなの

で、更に機能集約した良い物ができないかと検討中である。

和久野教育委員：どこまでが既に決定事項なのか。資料の中の【事業構想】は、決定事項なのか。

市長：既に議会で話したことである。事業予定も言ってある。内容等については、基本設計の段階なので、盛り込めるものは盛り込むためにワークショップを行うし、この場での意見も考慮したい。

和久野教育委員：文化ホールというのはどのようなものか。

市長：形状は決めていないが、伊藤氏が地域の人に喜ばれる施設をしてほしいということだったので、これをはずせば意味がない。地域も理解してくれていると思う。

山内教育委員：何階建てになるとか、予算は伊藤氏からはいくらぐらいか。

市長：伊藤氏が寄贈いただけるのは、ホール部分、共有部分の按分部分のみである。市機能部分については市の財源を充てる。規模も２，０００㎡と示しているので、これをそれほど逸脱するものにはならない。

吉川教育委員：ホールの席数はだいたい何席か決まっているか。

社会教育課長：寄付者の意向もあり、だいたい想定しているのは、交流館中ホールを想定しており、２５０席程度。確定ではない。参考までである。

和久野教育委員：稼働率等想定されているか。

市長：これから行わなければならない。

社会教育課長：活用について、施設で何がしたいか、何が必要かという調査をしている。その調査を元に今後検討していく。

市長：どのように活用するかは、慎重に考えなければならないところだ。

和久野教育委員：維持管理が負担となってくると思うが、財団を作り、維持管理も含めるなど独立した経営維持方法は考えられないか。

市長：一つの方法としてはあると思う。どのような形でこれからの維持管理を考えていくかは大事なことだが、今の施設を合わせると、ランニングコストは下がってくる。稼働率をいかに上げていくか。文化交流館（中ホール）は毎週使っているのか。

文化センター館長：年間で１００日です。

教育長：教育関係でいうと、地域局が、更地になる。その後どのように使用するかは論議があるが、成羽小学校の運動場に隣接しているのでそことの関連について、また相談させていただくと思う。

和久野教育委員：成羽図書館の利用状況はどうなっているか。高梁図書館が出来てから、成羽の利用者数が下がっているのかなど情報がほしい。

社会教育課長代理：成羽図書館の利用状況は、平成２８年度は８，２２３人の利用で、昨年度と同数。数は変わらない状況である。

市長：具体的なものが出てきたら、次回示す。

（４）　高梁市図書館の現状と課題

別紙資料により社会教育課長代理説明

山内教育委員：学習室の利用について、平日は少ないと思うが休日は一杯である。利用の融通はきかないのか。

社会教育課長代理：状況を見て閲覧席での学習も黙認している。

多目的室を学習室として開放を予定している。

山内教育委員：移動図書館の巡回が２０箇所から３０箇所となった。１０箇所どこが増えたのか。

社会教育課長代理：巡回していなかった小規模小学校とやまびこカフェである。

和久野教育委員：４階のトイレが少ない。ドアが手動なので、ベビーカーが通りにくい。読み聞かせスペースが、旧図書館より狭いような気がする。全体を土足禁止にしてほしい。移動図書館の巡回利用にわくわく感がない。月２回来られても、同じ本が並んでいるので、本の入れ替えを希望する。国道１８０号の交差点での西側駐車場の満車の電子掲示板がほしい。

山内教育委員：小学校も巡回は、月２回であるか。

社会教育課長代理：小学校に巡回のアンケートを取り、学校行事等の関係で１回でよいという学校が３つあり、その学校は１回にしている。

教育長：巡回の入れ替えが年４回であったところを月１回にしている。毎回まではまだ行えていない。利用者は、８倍に増加している。

（５）　スポーツ推進計画の現状

別紙資料によりスポーツ振興課長説明

市長：健康づくりにも関わる。高梁市としてどのような推進計画を持てばよいのかということをこれから計画として立てていく。

和久野教育委員：（スポーツクラブに参加する時）気軽にできる託児があれば。
マラソン大会は、子供は参加無料にすれば。学校行事にするとか。
地域から指導者を発掘し、先生の負担を軽くしてほしい。
スポーツしたい人のための窓口があればよい。ここに行けば、市内のどこのスポーツクラブのこともわかるという場所が欲しい。
屋内プールがほしい。

市長：オリンピック等の事前合宿を呼んでくれば、トップアスリートの技術を見ることができる。見ることができるだけでも勉強となる。高梁でどういったことができるのかというのはまだ分からない。何らかの形で行えればと思う。スポーツクライムを何とかしたいと思っている。

和久野教育委員：合宿等で高梁に来て、どこに泊まっているのか。宿泊施設が必要である。宿泊、飲食で市外へ出てしまう。

市長：それらも含めて推進計画を考えなければならない。ありがとうございました。最後に一言これだけはということがあればお願いする。

山内教育委員：資料３頁の中に「家庭教育」「人権教育」「特別支援教育」の中に「道徳教育」を入れていただきたい。

市長：分かりました。どのような形がよいのか今後検討する。

市長：３２年度までに教育大綱達成のため努力しなければならない。よい方向となるよう、智恵をいただきたい。

教育長：この会議は、年３回のイメージですすめている。学期に１回くらいは開催したい。それ以外は教育委員会で論議いただければと思う。

その他

市長：２５年度議会で、南幼稚園、高梁保育園の認定こども園ということについて、２８年度以降に進めていくことと示している。今年度中どのように事業を進めていくか決めていきたい。教育委員会の中でも相談してもらうことが出てくると思うのでよろしくお願いしたい。

閉会市長あいさつ

教育大綱達成のため、引き続き支援をお願いしたい。